

第3分科会

問題提起園 桜ヶ丘中央幼稚園

園の安全管理・危機管理を考える

問題提起者 和田 芙美佳

1 研究課題

愛されて育つこども

2 研究・研修の視点

ここ数年、地球規模で地震・津波・集中豪雨など大きな自然災害が発生している。日本においても、9年前に発生した東日本大震災では、これまで経験したことのない大きな津波に襲われた。町が津波にのみ込まれ、車や家屋が無残に流されたりする映像は今でも鮮明に記憶に残っている。この津波では、約1600名の多くの尊い命が奪われた。この未曾有の災害で、避難の仕方で助かった命と失われた命、私たちは、災害からどうすれば、命を守ることができるのかということについて考え、そして、今後起きる災害に備えていくことが求められている。

認定こども園として6年目を迎えた桜ヶ丘中央幼稚園では、現在273名が在籍している。園児たちが楽しく様々な体験をとおして、成長していくために、園における安全管理・危機管理を考えることは最優先事項であると考えている。特に、桜ヶ丘団地北の端に位置している本園は、鹿児島市のハザードマップにおいて、土砂災害警戒区域に指定されている園である。集中豪雨や地震の発生によって、甚大な被害を受けることも予想される。これまで、非常災害時における対応マニュアルを作成し対応してきているが、土砂災害危険区域に指定された施設においては、避難確保計画を別途作成し、市に報告する義務が法律に定められている。

そこで、土砂災害につながる事象が発生した場合を視点を、園児を確実に避難誘導し、安全に保護者に引き渡すまでの流れを明確にする。

また、日常生活における災害への準備や災害発生時の避難誘導、2次避難場所での対応など、全職員が一団となって研究し、「その時、子どもの命守れますか」という合言葉のもと防災意識を高め、併せて園の確実な安全管理・危機管理を目指したい。



3 主な研究・研修の内容と計画

本園では、これまで災害に向けた取り組みとして、2年前に災害備蓄倉庫を園庭に設置し、全園児の個人防災グッズを保管している。また、全館の照明器具を蛍光管からLEDに変更するなど災害に向けた取り組みも積極的に進めてきた。昨年度、避難確保計画を策定するに当たり、災害時の組織の機能化を図り、情報収集、避難経路の安全確保、食料の備蓄、防災機材等の整備、2次避難先での避難者への対応など細かく検討してきた。そこで、今回この計画を中心にして、日々の保育で、避難する際に担任としてどのような準備が必要か、また2次避難場所（園近くの桜ヶ丘中央公園）まで、どのようなことに留意して避難するか、さらには、園児

に対する防災教育をどのように進めるか等について研究することとした。

研究の主な内容としては、①これまでの避難訓練の見直し、②園としての防災関連の施設設備や園児個人の防災グッズに関することや避難時に持ち出す物品の検討、③避難時の怪我等に対する応急処置について、④年齢に応じた防災教育の進め方について研究することとした。

令和2年度の研究計画としては、これまでの避難訓練の見直し、行動計画の作成、実践を行い、実践後は、全職員で反省、再検討、改善点の共有と次回への引き継ぎ等確実にしていく計画である。

4 研究の概要

(1) 研究・研修のテーマのとらえ方

避難訓練を毎月1回実施してきている。この時間は、園児・職員全員で参加の行事である。しかし、避難訓練そのものが形式的な傾向になっているとの反省も多くなりつつあった。これまで、火災、風水害、地震、火山などについての非常災害対応マニュアルは作成し、いつでも閲覧できるようにしている。

昨年、鹿児島市は、土砂災害危険地区内にある要配慮者利用施設に対して土砂災害防止法に基づく「避難確保計画」の提出を求め、本園も実態に即した計画書を作成した。

今回取り組んでいる研究は、これまでの非常災害マニュアルと避難確保計画が密接に関連し、これまで取り組んできた災害に対する対応の見直しを図り、さらに充実した取り組みを目指した意義のある研究である。



(日赤関係者の方の講話)

(2) 研究の内容

① これまでの避難訓練の見直しについて

全職員に対して、これまでの安全管理や危機管理、特に災害時における各職員の役割分担が機能し、連携が図れているか、避難訓練の在り方について、見直し、改善工夫すべきことなど課題を探ること。



(ぼびあ保育園の先生の実践を拝聴)

② 園としての防災関連の施設設備や園児個人の防災グッズに関することや、避難時に持ち出す物品等の検討について

防災関係の施設設備並びに個人の防災グッズの点検及び課題や緊急時の主幹や担任は、どのような物を持ち出すかの精査、また、そのような物を保育室等のどこに、どのような形で常設しておくべきか等の研究をすること。

③ 避難時の怪我等に対する応急処置について

避難する際に生じる怪我等に対する応急処置について、どう対処すべきか、外部指導者(日本赤十字鹿児島支部に依頼)の実技研修を実施する。

④ 年齢に応じた防災教育の進め方について

災害ボランティアの中山氏やぼびあこども保育園の福元浩子氏を招へいし、各学年で災害を想定した保育指導について、扱う教材や指導する際どんなことについて留意すべきかについて具体的指導・助言を頂くこととした。

(3) 実践例

① 避難訓練実施時間は、これまで保育中(10:30～・13:00～)に実施してきたが、

見直しの結果、災害はいつ起こるか分からないため、園児が登園してくる時間帯や1号認定児が降園した後の時間帯、加えて、園児がいろいろな場所で活動している時間帯、例えば、朝・昼・降園バス待ちの自由時間、クラスプールの時間など実態に応じた避難訓練を実施し、園児の動きや職員の対応などについて整理した。その結果、いろいろな問題点も明らかになり、その対策についてまとめることができた。（表1参照）

時間帯	活動場所	問題点	対策
09:00頃	登園中	災害発生時に登園している園児数の把握。	各クラス園児の登降園方法を記した名簿を防災リュックに準備し、緊急時は名簿を使用し、登園確認や人数確認を行う。
		バス運行中は地震に気づきにくい。	事務員が各バスにすぐ連絡し、バス待ちの園児は添乗員から連絡する。
		登園中の送迎。バス到着の対応。	送迎してきた保護者も一緒に避難してもらう。バスが到着した場合、状況を見て降車、または避難場所に向かう。
10:00 ～ 14:00 頃	保育中	状況に応じての判断が難しいときがある。	普段からシミュレーションをして危機意識を高め、担任としての判断力を養う。
		園外保育中	速やかに園と連絡を取り合い、その外部施設での判断に従う。携帯電話はいつでも対応できるようにしておく。
		全園児が集まっているとき。	避難経路の確保をし、落ち着いて誘導する。
		給食中は、陶器や熱い汁による怪我の危険がある。	机の脚をしっかりと持ち、机の下に隠れ、頭を落下物から守ることを優先するように指示する。
		クラスプール中は、水着・裸足である。	プール非常出口近くに避難バスタオル、スリッパの準備をした。
12:30頃	お昼の自由時間	園児がどこにいるのか把握が難しい。	各クラスの避難場所ではないところに園児が集まっているため、落ち着いたら各クラスの場所に移動して人数を把握する。
15:00頃	預かり保育中	預かり保育や課外時は園児誘導等に課題がある。	預かり保育、降園後の課外活動（プール、ヤマハ、新体操等）は、担任が誘導を補助できるように主幹がその場の状況を判断し指示する。

＜表1：避難訓練の問題点と対策＞
＜2次避難（園近くの桜ヶ丘中央公園）訓練の様子＞



(地震発生時自分の身を守る姿勢を取る様子)



(地震発生時園庭の中央に集まる様子)



(幼児部・乳児部一緒に桜ヶ丘中央公園へ避難)



(桜ヶ丘中央公園への2次避難の様子)



(桜ヶ丘中央公園に避難完了・段ボール箱の中は防災グッズ) 個人防災グッズも運ぶ



(防災グッズを一人一人に配付)

<避難訓練(乳児部)の様子>

本園は、園内で室内温水プールを設置しているため、この時間に災害が発生した場合の避難の方法はととても厳しい面がある。道路に面した非常出口は、段差があり、この段差にどう対応するか、また、水着や裸足のままで避難させるかなど、検討した結果、写真のように非常出口にバスタオルを置いたり、園児サンダルをまとめて置いたりして災害に備えるようにした。



(みんなで園庭に避難)



(バスタオル(枠印)と非常出口)



(非常出口の位置(枠印))



(園児サンダルケース)



(園児サンダルと避難リュック)

② 次の写真は、園庭に設置した災害備蓄倉庫である。この中には、園児全員の個人防災グッズがクラス毎に収納されている。これには、保存食ビスケット(5年間)、保存水(7年間)、簡易トイレ、防寒シート1枚、笛の5点セットをリュックタイプの袋に入れて保管している。入園時に各自購入して、卒園・退園時に返却するシステムとしている。また、担任の非常持ち出しリュックを新しく保育室に常設(保育室を移動する際は、担任が持ち運ぶことにしている)した。



(全園児の防災グッズ収納庫) (災害備蓄倉庫)



(災害備蓄倉庫の収納状況を確認)



(園児の防災グッズの内容)



個人防災グッズに何が入っているか確認している様子



個人防災グッズの中にある防寒シートを使っている様子

避難確保計画にまとめた資機材等の主な内容は、次の通りである。



(担任用防災リュックの装備品一式)



(主幹用防災リュックや拡声器などの設置場所)

防災リュック中身一覧	
主幹用 (職員室で管理)	担任用 (各保育室管理)
緊急連絡先 (全クラス)	緊急連絡先 (各クラス・職員)
緊急時連絡・引き渡しカード (全クラス)	緊急時連絡・引き渡しカード (各クラス)
健康面など配慮を要する園児一覧表 (全体)	健康面など配慮を要する園児一覧表 (各クラス)
健康面など配慮を要する全クラスの薬 (坐薬、アレルギーの薬等)、笛 ※保冷バック管理	笛
着替え、救急セット、三角巾、包帯、ゴム手袋、マスク、アルコール除菌スプレー、トイレットペーパー、ウェットティッシュ、手指消毒液、筆記用具、靴入れ袋、笛、ティッシュ、防犯ブザー	

<表2：防災リュック中身一覧>

活動の区分	備蓄品
情報収集・伝達	□テレビ(携帯テレビ含む)4台、□ラジオ(携帯ラジオ含む)2台、□タブレット端末2台、□携帯電話11台、□懐中電灯5本、□電池(単一20本、単三20本)
避難誘導	□名簿(職員、園児等)、□誘導旗(2基)、□案内板(2枚)、□携帯用拡声器1器、□誘導用ジャケット2着、□発電機1機、□ガソリン、□延長コード、□投光器1機、□ロープ、□笛
施設内の一時避難	□米粉クッキー(45枚×40袋)、□水(500ml×48本)、□哺乳瓶(5セット)、□防災用ミルク湯沸かしセット、□ミルク、□ベーカリー缶(24缶×3箱)、□即席おかゆ(15g×30袋×3箱)、□ホワイトシチュー(36袋)、□バスタオル、□オムツ17枚
乳児用防災グッズ	□おむつ、お尻ふき、□おんぶ紐、□粉ミルク
幼児用防災グッズ	□個人用防災グッズ(クッキー、水、簡易トイレ、防寒シート、笛)
その他	□救急箱、□ゴミ袋、□タオル、□雑巾、□ガムテープ、□文房具、□ブルーシート

<表3：避難確保資材表一覧>

今後も、随時必要な食料品の賞味期限の確認や、資機材等の動作確認・整備を実施し、必要に応じて更新していく予定である。

- ③ 災害により避難する場合、怪我や骨折など重大な負傷を負うことも想定される。職員の応急処置として三角巾の使い方について、日本赤十字社鹿児島支部に依頼し、具体的な実技講習会を実施した。

研修に参加した職員の感想は以下のとおりであった。

- 三角巾に様々な使い方があることを知った。
- 靴を履いたまましっかり固定できることなど、災害時はためになると感じた。
- 実際に体験したことや、包帯の資料も防災リュックに常備しておくことで、実践すること



(三角巾を使った実技研修)

ができる。

- 避難訓練や災害時の準備など災害が発生する前を想定することが多かったが、災害が起こってしまった後の対応も大切だということが分かり、知識を得ることができた。
- 三角巾を準備しておくに役に立つことを知り、防災リュックに常備するようになった。

④ 年齢に応じた防災教育について

日本赤十字鹿児島支部のご協力を頂き、本園のこれまでの取り組みを説明し、研究の方向について指導をしていただいた。赤十字安全奉仕団の中山忠順氏・日赤鹿児島支部の砂原加代氏・ぼびあこども保育園の福元浩子氏の先生方の指導の中で、東日本大震災で、現場の保育士の「あの時、こうして命を守った」という実践的な話を聞くことができた。

現在、日本赤十字社においても、各学校に対して災害時における緊急対応の在り方について支援を強化しているとのことであった。



(研究の方向・内容の相談)

最後に、本園の研究テーマに対する取り組みについて説明し、専門家としてのご意見・ご指導を受けることができた。この指導を受けて、各学年で実施する防災教育をどのような教材を使ってどのように指導していくかについて検討し、次のようなことを共通理解した。



(年齢に応じた指導時の教材について職員で検討)

- 0・1・2歳児では、地震等の緊急時に対して、年齢に応じた対応が望ましいこと。特に防災頭巾に慣れたり、ダンゴムシの姿勢を取ったり、マットを被って頭を守ったりする基本的なことを繰り返すようにする。
- 年少組では、大型絵本「じしんだ！」を見てクイズなどを通し、約束事の再確認をする。
- 年中組は、「ぼうさいまちがいさがしきけんはっけん！」（日本赤十字社編）の大型ポスターを使った指導と保育室内で地震が起こった場合を想定し、保育室の立体模型を自作したものを使い、地震の揺れで保育室はどうなるかを視覚的に体験させる。
- 年長組は、グーグルアース（コンピュータソフト）を使い、園周辺の様子や避難ルートにおける危険箇所を視覚的に捉えさせ、どのように対応するか気付かせる。併せて、避難経路における倒壊が予想されるブロック塀や電柱など大事なポイントをまとめた地図を自作したものを使い、危険箇所について話し合い、気付かせるようにし、その後、実際に避難ルートを歩き、これまでの内容を確認させる内容とする。

以下、それぞれの学年の保育指導案と実際の保育の様子をまとめる。

< 0・1・2歳児 >



(0歳児防災頭巾で頭を守る)



(1歳児みんな集まって
マットで体を守る)



(2歳児ダンゴムシポーズを
する幼児)

0、1、2歳児指導計画	
<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が発生した時の避難の方法が分かる ・保育者の話を聞き、避難することができる <p><幼児の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を積み重ねてきたことで落ち着いて行動できる乳幼児が増えてきている。 ・急な避難の際に、驚いて泣き出す乳幼児が数名いる。 	
予想される乳幼児の活動	保育者の援助・留意点
<p>◎これまでの避難訓練を振り返る。</p> <p>◎消防車の写真を見る。</p> <p>◎「おかしもはかじのおやくそく」の紙芝居を見る。</p> <p>○「おかしも」の約束事の確認をする。 おー押さない かーかけない しー喋らない もー戻らない</p> <p>◎ダンゴムシポーズについて知り、実際にポーズを試してみる。</p> <p>◎地震発生時の、身の守り方を考える。</p> <p>○机の下に隠れる。 ○マットを被る。 など</p> <p>◎防災頭巾を被る。</p> <p>◎実際に園庭に避難する。</p> <p>○保育者の声かけて園庭に避難する。 ○建物から離れた場所に集まる。</p> <p>◎本時の活動を振り返る。</p> <p>○落ち着いて避難出来たこと。 ○避難の時に身を守る方法があるということ。</p>	<p>・乳幼児の発言を大切にしながら、以前の避難訓練を振り返る。</p> <p>・消防車を避難訓練で見たことを思い出し、災害が起こった時に出勤する車であることを知る。</p> <p>・落ち着いた雰囲気の中で、紙芝居を見ながら、「おかしも」の約束事を再度確認する。</p> <p>・「おかしも」の言葉に、避難の時に大切な意味が隠されていることを知り、約束事を守りながら、避難することができるように話をしていく。</p> <p>・ダンゴムシの写真を見せながら、身体を丸め、手で頭を押さえることで、自分の身を守ることができることを伝える。</p> <p>・マットを被せたり、机の下に隠れさせたりして、上から物が落ちてきた時に、どのように身を守るかを乳幼児と一緒に考えていく</p> <p>・防災頭巾を被ることができない乳幼児には、保育者が確認を行い、必要に応じ援助を行うようにする。</p> <p>・扉付近には、マットを敷き、ガラスが破損した時を想定して避難できるようにする。</p> <p>・怖がる乳幼児には、側で安心できるような声掛けを行うようにする。</p> <p>・実際に災害が起きた時でも、保育者の話をよく聞き、落ち着いて避難をすることができるように、本時の活動について振り返りを行っていく。</p>

<資料1：0・1・2歳児指導計画>

園児は、次のような気付きを得ることができたと考えている。

- 消防車は、火事や地震が起こった際に出勤してくれる車であること。
- 避難の際の約束事を守ることが、命を守ることにつながること。
- 放送や保育者の話をよく聞き、落ち着いて行動することが大切ということ。
- 防災頭巾を被ることや、マットを被せてもらったり、机の下に隠れたりということで頭や身体を守れるということ。また、ダンゴムシポーズなど、幼児が身体を丸めることにより、頭や身体の大変な部分を守ること。

<年少組4クラス>



(大型絵本の教材)



(大型絵本を使って防災の指導)



(しっかり頭を守る姿)



「この棚は危険かな」

園児は、次のような気付きを得ることができたと考えている。

- 普段の町の様子と災害時の町の様子の違いに気付くこと。
- 地震発生時の保育室内の変化に気付くこと。
- 地震発生時の園庭の変化に気付くこと。
- 室内にいる時と園庭にいる時の避難の仕方が違うこと。
- 様々な物を使って自分の身を守れること。
- 地震発生時は保育室内も危険であるということ。

年少組指導計画	
<ねらい> ・地震が発生した時の避難方法を知る ・身の回りの危険な物について知り、自分の身を守るための行動を考える	
<幼児の実態> ・毎月の避難訓練を経験し、避難するときの約束事は覚えてきている。 ・場所や時間帯が変わると、慌ててしまう幼児がいる。	
予想される幼児の活動	保育者の援助・留意点
◎これまでの避難訓練を振り返る。 ◎大型絵本「しんた！」を見る。 ○地震が発生した時、町で起こりうる災害について知る。 ・山崩れが起こる。 ・建物や塀、電柱などが倒れる。 ・道路にひびが入る。 など ○保育室の中にある危険な物を考える。 ・ロッカー、絵本棚、エアコン、照明器具、掲示物 など ○園庭での危険箇所を考え、地震が発生した時の正しい避難の仕方について考える。 ・木や遊具、塀が倒れる。 → 遊具から離れて、園庭の広いところで避難する。 など ○どのような物で頭や体を守ることができるか考える。 ・机の下、椅子の下、絵本、クッション、リュック など ○避難する時の「おかしも」の約束事を再確認し、○×クイズをする。 ・倒れそうな物から離れるは○か×か。 ・忘れたものを取りに戻るは○か×か。 など ◎保育室内の危険箇所を探す。 ○自分たちが過ごしている保育室で地震が発生した時に危険だと思う物を見つけて1人1枚ずつのマークを貼る。 ・絵本棚、タオルかけ、掲示物、歯ブラシ台、時計、電気、 など ○どこどこにマークを貼ったか全員で見る。 ◎本時の活動を振り返る。 ・自分の身の守り方について考えたこと ・避難訓練の大切さについて	・避難訓練を振り返りながら、災害に対する幼児の理解度を把握しておく。 ・落ち着いた話を聞くことができるような雰囲気作りをする。 ・幼児が気付かないような事象は、保育者側から問いかけられることで幼児自身が考えられるようにする。 ・絵本を読み進めるなかで、子どもたちが自分で考え発言する姿を大切にす。 ・危険箇所を探すだけでなく、その理由も考えることができるようにする。 ・遊具に登っているときに地震が発生した時の身の守り方についても考えることができるよう問いかける。 ・実際に物を使って身を守る練習をすることで具体的なイメージを持つことができるようにする。 ・クイズ形式にすることによって、遊びながら楽しく防災について知ることができるようにする。 ・読み聞かせ後、実際に保育室内の危険箇所を探し○マークを貼ることで、身の回りの危険な物について考えることができるようにする。 ・幼児の気付けや考えを受け止める。 ・避難訓練や実際に地震が発生したときは、約束事を守って落ち着いた行動できるように話をす。
<準備物> ・大型絵本「しんた！」 ・○マークシール ・絵本立て	

<資料2：年少組の指導計画>

<年中組3クラス>

使用した教材は、日本赤十字社の「ぼうさいまちがいさがしきけんはっけん！」の地震編を使用した。



教材「ぼうさいまちがいさがしきけんはっけん！」
(日本赤十字社編)



(保育室の立体模型)



(大型ポスターを使って
防災意識の育成)



「歯ブラシ立て倒れそうだね」



(保育室の立体模型)



「ピアノのそばは危ないね」

園児は、次のような気付きを得ることができたと考えている。

- 地震発生時に様々な物が落下したり、転倒したりすること
 - 保育室内の危険箇所を理解すること
 - 災害時のイラストを見て、倒れてくるものだけでなく、落ちてくる花瓶や時計、キャスターがついた棚が危険だということ。
 - 頭を守ることが大切ということ。
 - 机がなくても、かばんや他の物で代用して頭を守ることが出来ること。
 - ただ隠れるのではなく、机の脚を持つことで机が動かないこと。
 - 保育室にキャスターが付いた棚があること。
- <危険箇所さがし>
- 窓だけでなく、テレビ台にもガラスが使われていること。
 - テレビ台にキャスターがついていること。

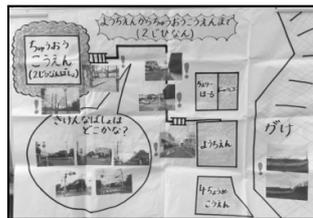
年中組 災害時指導	
<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のおかれた状況に応じた、身を守るための行動を知る ・擬似体験から、災害時の具体的なイメージを高める <p><幼児の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の避難訓練を通して、地震と火事が発生した時の避難方法の違いを理解してきている。 ・日頃から放送を静かに聞く習慣が身についており、落ち着いて避難することができる。 ・避難訓練での危機意識が薄く、真剣に取り組めない幼児がいる。 	
予想される幼児の活動	保育者の援助・留意点
<p>◎避難訓練の時のことを振り返る。</p> <p>◎災害時のイラストを見て考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害発生時(保育室内)の危険なものを探す。 ○災害発生時(園庭)の危険なものを探す。 ○災害発生時の身の守り方について考える。 <p>◎保育室内の危険箇所を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○危険だと思う場所に◎マークを貼る。 ○貼った場所と理由について発表する。 <p>○地震発生時を想定した写真を見てイメージする。</p> <p>◎ミニチュア模型で擬似体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育室の模型を揺らし、物が倒れる様子を見る。 ○保育室の模型の中に幼児のミニチュアを置き、どこに避難したら安全か考える。 <p>◎本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○状況に応じた判断が大切であること。 ○保育室内の危険箇所について考えたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの避難訓練について振り返り様々な状況に応じた避難の仕方について考えることができるようにする。 ・命にかかわる大切な話であることを伝え、真剣に考えることができるような雰囲気を作る。 ・幼児の発言を受け止めたり、問いかけたりすることで、危険箇所に気付き、次への気付きにつながるように声を掛けたり活動への関心を高めたりする。 ・それぞれの受け止め方の違いにも気付けるような声掛けをしたり、友だちの気付きを認められるような雰囲気を作ったりする。 ・実際の写真を見ることで、視覚から身の回りのことについてイメージを膨らませることができるようにする。 ・幼児の素直な反応を受け止め、楽しみながらも学べるようにする。 ・保育室のミニチュア模型や自分たちのミニチュア模型で擬似体験をすることにより、災害発生時を身近に感じ、安全な場所を落ち着いて考えることができるようにする。 ・自分の命を守るために、どのような行動をとったらいいか考えられるように話をする。
<p><準備物></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本赤十字社「きげんはっけん」シート ・◎マーク ・保育室内の地震を想定した写真 ・保育室のミニチュア模型(各保育室用) ・幼児のミニチュア(クラス人数分) 	

<資料3：年中組の指導計画>

<年長組3クラス>



「ここが危ないよね」



(園周辺マップ(自作教材))



I C Tを使った指導



(園付近の崖を眺める園児の姿)

年長組 災害時指導	
<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる町に関心を持つ ・体験活動を通して、視野を広げて危険箇所に気付く <p><幼児の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は放送をよく聞き、ほとんどの幼児が落ち着いて参加することができている。 ・保育者の問いかけに対し、積極的に自分の意見を発言したり、友だちと話し合ったりする姿が見られる。 ・園内の危険箇所については意識できている一方、園外の危険箇所は認知していない幼児が多い。 	
予想される幼児の活動	保育者の援助・留意点
<p>◎ストリートビューを見て、危険箇所を探す。</p> <p>○二次避難場所(桜ヶ丘中央公園)に移動するまでに危険箇所がないか探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気になり、保育者に注目しているか確認してから話をする。 ・幼児の意見を引き出しながら、全体で考えられるようにする。 ・危険箇所について意識できるように、問いかけ

- 園児は、次のような成果を得ることができたと考えている。
- 幼稚園が崖の上にあることを、ストリートビューで見ることですらに実感することができた。
 - 危険箇所に対する視野が広がった。
 - 家や電柱などが倒壊すると想定し、緊急時には道路の真ん中を歩くこと。
 - 防災グッズがあることを知っていたが、中身を確認したり、体験したりすることで防災への意識が高まっていた。
 - 避難訓練の際、頭上を見て、安全確保をするようになり、意識が変わった。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 地図を見て、危険箇所について振り返る。 ・地図を見ながら、クイズ形式で考える。 ◎ 園周辺を歩いて、危険箇所を見つける。 ○ 崖沿いや道路の真ん中を歩く。 ○ 危険箇所を探す。(電柱や標識に気付く。) ◎ 本時の活動を振り返る。 ○ 園外に視野を広げて、安全について考えたこと。 ○ 体験活動を通して、気付いたこと。 	<p>ながら進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージを膨らませて、危険箇所を把握できるようにする。 ・クイズ形式にすることで、幼児自身の理解を更に深める。 ・崖沿いを実際に歩くことで、崩れたらどうなるかを想像することができるようにする。 ・実際に歩くことで、どこが危険なのかを見て意識できるようにする。 ・不安な気持ちになる幼児に対しては、安心できるように寄り添いながら進めるようにする。 ・保育者が進めるのではなく、幼児の発言に耳を傾け、全員で共有するようにする。 ・道路の真ん中を歩く際は、周囲の安全に気をつける。 ・幼児に問いかけながら活動の振り返りを行うことで、より理解を深められるようにする。 ・普段の生活の中で、危険箇所を認知し、状況に応じた身の守り方を考えられるように話をする。 ・地図を掲示し、いつでも幼児が見ることができる環境を設定しておく。 ・園内にも目を向けて、避難訓練への意識を高められるようにする。
<p><準備物> ・プロジェクター ・パソコン ・スクリーン ・写真付きの地図 ・横断旗</p>	

<資料4：年長組の指導計画>

5 まとめ

- 今回、様々な災害の場面を想定することで課題が明確になり、一つ一つの課題について最善策を考え、準備を進めることができた。また、職員一人一人が普段から災害時の場面を想定し行動することへの意識を高めることができた。
- 各学年の発達段階、理解に合わせた指導方法について研究し、実践できたことで、幼児も体験を通して学び、危機意識を高め1学年ごとの指導・気付きの連続性を持たせることが重要であると理解した。
- 避難訓練や災害時指導を通して、普段から危機意識を高めるようになり、通常の放送にもしっかり耳を傾けることができたり、落ち着いた行動をとったりする姿が見られるようになってきた。保育者も幼児が意識できるような声掛けをすることが重要であると分かった。

6 今後の課題

- 本研究では、緊急の際どこに避難し、子どもは無事であるのか等の情報を、保護者に、どのように知らせ、その場所でいかに引き渡すかについて、十分な訓練や研究ができなかった。
- 日頃より、地域の方々との絆を作ることが、災害時における際の大きな力になる。今後、地域との連携の在り方をさらに研究していきたい。
- 災害が発生したその時に、冷静に対処できるか不安は残る。先日の震度4の地震には、まだまだ反省点も多かった。その時しっかり判断できる力を養いながら、それぞれがより望ましい行動ができることを目指して日々精進していきたい。

※参考資料

- ぼうさいまちがいさがしきけんはっけん！（日本赤十字社編）
<http://www.jrc.or.jp/activity/youth/prevention/> このサイトからダウンロード可
- 「園における防災を考える」研修資料（赤十字社安全奉仕団：中山 忠順）